

旭山～大雪連峰と旭川の接点

ぷくぷく



発行元 (有) 北海道新聞 下村販売所

旭川市東旭川北1条5丁目9番8号

ホームページ <http://www.doshin-pukupuku.com/>

お問い合わせ・お申込みは... フリーダイヤル ☎ 0120-233746

旭山シリーズ 79

H27.12.5

師走・・・1年がもう終わる・・・？ 旭山はどんな1年だったのでしょうか

その魅力と癒しの空間、歴史を探る シリーズ 79

今年も旭山を主人公にして、様々な動植物の発見がありました。「旭山」と勝手にその範囲を限定して活動を展開してきていたのですが、そんな人間の勝手さを嘲笑うかのように、動植物達は旭山、大雪山、・・・いやいや北海道規模で生息地域や新地を求め、環境に順応して「種の保存」に努めていたのです。国境とか県境など自分の居住範囲を決めて都合よく生活している人間に比べ、食べ物のある土地、子育ての出来る場所に臭いつけをし、そこを住家として生きている動植物達は、与えられた自然環境をもの見事に取り込んで生き抜いていたのです。「生きる」と云うことは本来こうなんですね。ひ弱になった私達は、「生きる」原点を野生動植物から学んでみなければならぬかも知れません。



ニシキゴイ (錦鯉=コイ科)

三浦庭園の鯉がミンクに食べられたとお話した所、早速森林組合長小松山さんから情報が寄せられ、「池を埋めるので沢山いる魚全部死なせる訳にはいかないから、欲しい人に持って行ってほしい」と建設会社のご好意が伝わってきました。早速現地を見に行きました所、ヒシの水草で覆われた直径50mもある大きな池の中央で鯉と思われる白とオレンジ色をした魚が悠然と泳いでいたのです。夕方訪問したところ、真っ黒な鯉と思われる魚が3～5匹、目の前を泳いで横切ったのです。緑地協会のご好意で釣好きの仲間が竿を持って集まり、チャレンジして戴きました。餌の工夫、釣方法の研究と苦勞の末、巨大な緋鯉を釣り上げて下さったのです。その他金色に光る鮎、絶滅危倶種のヤチウグイ等三浦庭園に放流して下さいました。我が家の庭園を造ろうと手を掛けた小北さん、故人となられて10年も経ったのでしょうか。主人亡き後この池を住家に生延びてきた鯉達が、世代を乗り越えて、こうして三浦庭園に「生きて」種の保存にあたっているのです。巨大な鯉の大きさは70cm以上もありました。餌も貰えないのに・・・？



アメリカハッカ・？ (シソ科)

春に出会える丘(旧スキー場跡)の散策コースは、不思議な魅力のある所です。その一つが自生種と帰化植物の混合地帯で、思いもしない植物に出会う確率が高いという事です。

視点を変えると旭山の自然に人の手が加わり、その隙間をぬって外来種や帰化植物が繁茂している陣取り合戦の地とも言えます。新緑の6月、昔海底であったと云われる途中の丘から左に下って行った所で、見たことも無い植物に出会いました。ピンク色の花をボンボリ状に付け、根元から6～8本這うように伸ばして咲いているのです。辺りを捜してみたのですがこの一株だけでした。会顧問の舟橋さんに見て頂いたのですが、シソ科であることは間違いないが、あまり見かけない植物だと云

う事で、調べてもらっています。どうしてこの地にたった一人で生延びていたのか・・・？もしかしてどこかから運ばれてきたのか・・・？生きることの執念に感服します。



アライグマ (アライグマ科)

十数年前に出会ったのを最後に、見かけることが無かったアライグマが、何と三浦庭園のミンク捕獲檻に2回もかかったのです。勿論害獣ですから殺傷処分です。皆さんご存知のように「アライグマのラス

カル」としてテレビで放映されたあの動物です。顔を見ると可愛らしくつぶらな瞳が、子供達をとりこにしたものです。おそらく2回2匹も捕獲されたという事は、旭山近辺に定住しているものと思われま。道内ではアライグマの生息範囲が広がっており、農家の方々の被害がそうとうなものだと報道されています。でも、悪いのはアライグマではありません。彼らは生きる為に必死になっているのです。ペットとして持ち込んだ人の責任は大変重く、多くの方が迷惑を受けています。



エゾクロテン (イタチ科)

まさかこの絶滅危倶種が、旭山近辺で生息しているとは思いませんでした。サロベツ原野で撮られた映像が、放映されたのをご存知の方がいると思いますが、めったに人の目に触れることはなくなって

しまいました。この貴重種が、ミンクの檻にかかっていたのです。勿論すぐ放したのは云うまでもありません。冬毛になると白っぽい黄色に変身し、クルッと可愛らしい目で樹間を走り回る体長30～50センチのヒョウキンな姿を見ると、もう可愛くて、可愛くて抱きしめたくくなります。しかし、見かけによらず獰猛な動物で、鳥等の肉を好んで食べ骨なんかも、バリバリ噛んでいます。三浦庭園を住家としていたのか、何処かから偶然来たのかは分かりませんが、どちらにしても何か「住むための条件」があったことは間違いありません。この事から私達は「旭山の豊かさが思っていたよりも残されている」ことの証明だと喜んでいますが・・・あまいかなあ！

社会ボランティア賞《授賞式に参加》・・・国際ソロプチミスト日本財団主催



11月11日、四国高松で表彰式が開催されました。二川会長と応援団、地元旭川のソロプチミスト関係の方々と共に指定席にご案内を受け授賞式に臨みました。2千名を有に超す来場者のもとで、ステージをバックに散策会の映像が映り、活動のコメントが流れる中で、国際ソロプチミスト旭川・会長波岸さんの先導で、しっかりと表彰状が会長に手渡されました。旭山の小さなボランティア活動が、全国に広がった瞬間でした。喜ばしい感激の表彰式セレモニー。ここに道を開いてくださった旭川ソロプチミスト会員関係の方々、ご支援下さった関係団体の方々にご心よりお礼を申し上げます。有難うございました。そして、共に活動した仲間へ感謝！感謝！

種当てクイズ先号の答え

左の写真から、ルイヨウショウマ・キタコブシ・フッキソウ・ベニバナヤマシャクヤク・マユミです。

旭山を活かす市民の会

会長 二川 チエ子

[お問い合わせ]

旭川市東旭川北2条6丁目5番10号

TEL 0166-36-6667

事務局 石井 征士